

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立東予高等学校

学校番号(12)

教育方針	調和のとれた人格の完成を目指し、国家社会の有為な形成者となるにふさわしい資質を養い、社会の変化に主体的に対応できる、創造的で、心豊かな人間の育成を期する。	重点目標	1 「思いやりの心」を育み、「たくましく生きる力」を培う教育の推進 ～生徒と共に創造していく活気に満ちた学校づくりを目指して～ 2 「思いやり」が「生きる力」へ ～自分を変えよう、自分を高めよう、そしてみんなが変容しよう～
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基本的な生活習慣の充実	1日の欠席者5名以内の日100%を目指します。 A:100%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:75%以上 E:74%以下	E	全体で56.4%であった。担任等が細目に対応してくれるが、休みの続く生徒が固定されており、目標値を達成することができなかった。	すべての学校の活動において、欠席が続く生徒への積極的な声掛けする。情報を共有しながら登校しやすい環境を全教職員でつくる。
		1か年皆勤の生徒60%以上を目指します。 A:60%以上 B:50%以上 C:45%以上 D:40%以上 E:39%以下	B	59.3%であった。3年生は72%と目標を達成できたが、1年生が61.2%と低く、2年生が45.7%とかなり低かった。	自分の進路実現に向けて、皆勤を目標に頑張っている生徒も多いが、全校生徒に意識づけをして皆勤率を上げていきたい。
	授業の充実	授業の内容がわかりやすく楽しいと感じる生徒の評価(100点満点換算)80点以上を目指します。 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 D:50点以上 E:49点以下	A	全校で85.2点(昨年度全校で79.6点)であった。わかりやすく、楽しい授業になるように各教科でICTを活用するなど、工夫や改善への取組が実施された成果が出ている。	1・2年生は85点以上であったが、3年生が低くなっている。さらなるICTの積極的な活用や、生徒の活動が増えるような授業展開などの工夫が必要である。3年間での継続的な学習に繋げたい。
生徒指導	態度教育の充実	大きな声で、1日10回挨拶のできる生徒を育てます。 A:10回以上 B:8回以上 C:6回以上 D:4回以上 E:3回以下	A	登校時の正門での挨拶や授業開始時の挨拶など積極的に大きな声で殆どの生徒があいさつできていた。	休憩時間や外来者に対する挨拶も積極的に自覚をもってできるよう指導していきたい。
		身だしなみ指導の合格率年間90%以上を目指します。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上 E:59%以下	B	年間の合格率は86%であった。頭髪のツーブロックカット流行の影響で、決まった生徒が何度も再指導を必要としたためである。	頭髪の基準について、生徒とよく話し合い、生徒自らが納得のいく基準を設定し指導していきたい。
進路指導	就職・進学指導の充実	生徒ひとり一人に応じた進路指導を行い、進路決定率100%を目指します。 A:100%(全員決定) B:未決定1人 C:未決定2人 D:未決定3～5人 E:未決定6人以上	A	年内(12月末)に進路決定率100%を達成することができた。新型コロナの影響はほとんどなく求人数が多かった。	就職の一次合格率が昨年より下がった。生徒の希望、適性をよく考えた進路指導が必要である。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特活指導	部活動・学校行事の充実	部活動加入率(全校)95%以上を目指します。 A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:80%以上 E:79%以下	B	2・3年生の中に退部後活動していない生徒がおり、5月時点の部活動加入率は93.5%であった。	秋以降1・2年生の部活動加入率は96%を維持しており、来年の入学生と合わせて積極的な活動を促したい。
		県総体出場50名以上を目指します。 A:50人以上 B:40人以上 C:30人以上 D:20人以上 E:19人以下	B	コロナ禍で地区予選が行われなかった競技もあったことで、6部49名が県総体に参加した。	部員不足もあり、予選のある競技は県大会出場が難しくなっている。今後は部の精選も考える必要がある。
		東高祭&バラ観賞会での来校者1500名以上を目指します。 A:1200人以上 B:1000人以上 C:800人以上 D:600人以上 E:599人以下	—	新型コロナウイルスの影響による。	来年度の5月実施に向けての可能性を探り、準備を進めたい。
その他	奉仕の精神の醸成	年3回以上の地域交流清掃活動や、年3回以上の環境整備活動を行い、奉仕の精神を養います。 合計で、A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	B	コロナ禍において、地域の人たちと共に活動を行うことはできなかったが、環境整備活動を通して奉仕の精神を養うことができた。	地域交流活動について、移動時間が活動時間の1/3程度になる場所もあった。交流や環境整備時間確保のため、交流場所の再検討をしていきたい。
	資格・検定取得指導の充実	ジュニアマイスター顕彰認定者30名以上を目指します。 A:30名以上 B:25名以上 C:20名以上 D:15名以上 E:14名以下	A	生徒減やコロナウイルス感染症の影響などの状況の中、本年度のジュニアマイスター顕彰認定者数は33名となり、昨年度と比べ大幅に増加した。	現状維持に満足することなく資格取得の奨励を積極的に行うことと、指導内容の精選や工夫を行う。
業務改善	適切な勤務時間	<u>出退勤記録表の提出を確実にさせることにより、勤務時間を守る意識の向上を図るとともに、年休平均取得日数11日以上を目指す。</u> A:13日以上 B:12日以上 C:11日以上 D:10日以上 E:9日以下	B	出退勤記録表は関係者全員が提出できている。会議の際の定時終了もほぼ守られている。働き方改革への意識向上もあり、年休平均取得日数は12日16分となった。	引き続き、働き方改革の意識を醸成させ、各教職員のキャリアステージにあった働き方ができる提案をしたい。
	職場環境の改善	<u>職場環境に関する意見を集め、働きやすい職場になるよう環境整備に努める。</u>	A	コロナ禍でも安心して働けるために、必要と思われる機器を各教員から提案してもらい購入活用できた。	日頃気付いた修復の必要なものや、環境改善につながる機器をリクエストしてもらうことにより、より働きやすい環境を提供するように努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。